

# 歯科医療倫理学

一般社団法人  
全国歯科衛生士教育協議会 監修

## 1章

## なぜ医療倫理を学ぶのか

## 到達目標



- ① 伝統的な医の倫理の特徴を述べるができる。
- ② 新しい医の倫理（医療倫理）が求められるようになった理由を列挙できる。
- ③ 医療倫理とは何かについて簡潔に述べるができる。
- ④ 患者中心の医療とは何かについて述べるができる。

## 1 — 伝統的な医の倫理から新しい医の倫理（医療倫理）へ

今日ほど、医療のあり方が厳しく問われている時代はない。しかも、医療事故や未曾有の高齢社会の到来といった、医療に関わる2、3の問題だけをとっていても明らかのように、問われているのは医療のあり方だけではない。医療従事者を養成する教育のあり方についてさえ見直しが迫られているのである。医療倫理について学ばなければならない理由の一端がここにある。

さらに視野を広げれば、医療倫理について学ばなければならない理由はほかにもある。それは、大きく以下の2つに分けることができる。

- ① 20世紀後半から、『ヒポクラテスの誓い』（p.10, 73 参照）に代表される従来の伝統的な医の倫理だけでは、今日の医療を取り巻くさまざまな問題に対処できなくなっただけでなく、伝統的な医の倫理に対する批判も高まってきた。そのために、新しい医の倫理—それが医療倫理である—が求められるようになった。
- ② 今日では、新しい医の倫理（医療倫理）を理解することが、すべての医療従事者にとっても、「よき医療」を実践するために不可欠なものとなっている。

## 1. 伝統的な医の倫理としての『ヒポクラテスの誓い』と『ジュネーブ宣言』

医療は人の生命と健康に関わるものであり、古くから倫理規範が定められていた。その代表例が『ヒポクラテスの誓い』である。

『ヒポクラテスの誓い』とは、今日、西洋医学の父とよばれる古代ギリシャの医師、ヒポクラテスの名を冠した、医師の職業上の義務について述べたものである(p.10参照)。その中心をなすのは人命の尊重と患者への献身である。西洋社会では、医の倫理といえば、伝統的に『ヒポクラテスの誓い』をさしていた。

そして、『ヒポクラテスの誓い』にみられる人命の尊重と患者への献身は、第二次世界大戦後、世界医師会が採択した『ジュネーブ宣言』(p.10, 73参照)において医師の基本的な義務として改めて確認された。

## 2. 新しい医の倫理の必要性

伝統的な医の倫理に代わる、新しい倫理が求められるようになったのはなぜだろうか。1つは、伝統的な医の倫理だけでは、今日の医療を取り巻くさまざまな問題に対処できなくなったこと、もう1つは、伝統的な医の倫理が批判されるようになったことである。

### 1) 伝統的な医の倫理だけでは対処できなくなった背景

#### (1) 多職種連携

『ヒポクラテスの誓い』に代表される伝統的な医の倫理は、医師集団が自らに課した医師としての職業倫理である。ところが今日では、多職種連携によるチーム医療が実践されている。そのため、医師だけでなく、すべての医療従事者に向けられた新しい医の倫理が必要とされるようになった。

それと同時に、チーム医療のあり方そのものも検討されるようになった。たとえば、看護師や歯科衛生士はそれぞれ医師、歯科医師の補助的役割のみを果たすものとされ、医師—看護師、歯科医師—歯科衛生士の関係はとかく主従関係とみなされがちだった。ところが、そうした関係が見直され、患者の診療にあたり、医療従事者はそれぞれの役割を果たしつつ、チーム医療の一員として対等の関係にあると考えられるようになってきている。

医療はさまざまな社会制度の1つとして社会全体の枠組みの中に組み込まれている。そのため、医療従事者の職業上の義務を一般的な倫理や社会の法的枠組みの中に位置づけ、また、医療制度のあり方についても医療以外のほかの社会制度との関係において考察せざるをえなくなった。

たとえば、新しい治療法の開発によって多くの患者の命が救われるようになったが、実際のところ、そのことが意味するのは、それだけいっそう国民医療費が増加

ない患者は、意欲はあるのだから技術的な側面から支援すればよい。しかし、最初から興味を示さない患者もいる。その場合、相手が求めているものを支援しても拒否反応を示し、**保健行動**は起こらない。医療従事者は、患者の機が熟すのを気長に待つ姿勢が大切である。反対に重大な健康問題に関わる場合には、患者に慎重かつ積極的に関わっていく姿勢が必要になる。

**保健指導**を個別に行うときは、集団指導のようにすべての患者に同じ説明をしても効果は期待できない。患者が何を必要としているのか、何を知りたいのかがわからなければ必要な情報を提供することができない。この場合、すべての患者に関わるような一般的な口腔の健康に関する情報提供とは、分けて考えることが重要である。また、集団に対するときでも参加者のニーズをあらかじめ把握しておく、**保健指導**が効果的なものになる。

## Case Study-9

考えてみよう

### 患者の依頼内容

55歳の男性が「口の掃除をお願いしたい」と、歯科診療所を訪れました。診査終了後、歯科医師が「下の前歯の裏に歯石がついているので、お口のお掃除と一緒に歯石も取っておきましょう」と患者さんに話し、歯科衛生士のDさんに、口腔清掃と下顎前歯部の歯石除去を指示しました。Dさんは歯周ポケット測定後、下顎前歯部舌側面の歯石をスケーラーで取りました。その後、歯面研磨をしている最中、患者さんは時々顔をしかめていました。スケーリング・歯面研磨・洗浄を終え、患者さんに洗口を指示し、「いかがですか。さっぱりしたでしょう？」と尋ねたところ、患者さんは「口の掃除はお願いしたけれど、歯がしみるようになってくれとは言わなかった」と不満そうです。

Dさんはどのようにすればよかったですでしょうか。



・歯科医師からの指示を受けた後、患者さんに対して、事前説明をしましたか？

## 付 1

# その他歯科医療従事者に必要とされること

## 1. 患者の個人情報の取り扱いについて



Case study-10  
考えてみよう

### 入院患者の情報

私は、自宅近くの総合病院に勤めている歯科衛生士です。

最近、近所のEさんが肝臓がんで入院してきました。全身麻酔で手術を受けることになりました。手術前に口腔内を清潔にするために、Eさんが歯科の外来へパジャマ姿で降りてきました。私が口腔内のクリーニングを行い、「大丈夫ですよ、お大事に」と声をかけました。次の患者さんは、たまたま近所のFさんでした。待っていたFさんに会話が聞こえてしまったのでしょうか。「今のはEさんよね。Eさんはどうしたの？ 入院しているの？」と尋ねられました。「ほかの患者さんのお話はできません」と私が答えると、Fさんは、「Eさんにはいつもお世話になっているので心配なのよ。お見舞いにも行きたいし、お互い近所なんだから。水くさいわね」と言われました。

どのように答えたらよいのでしょうか。



・患者さんの個人情報について、どのように対応していますか？

## 4. 臨床実習での身だしなみの意義について



Case study-16

考えてみよう

### 茶色の髪の毛

私の学校では、黒い髪にしないと、臨床実習に出られません。私は黒い髪が嫌で明るい茶色にしているので、毎朝、スプレーで髪を一時的に黒色に染めて臨床実習に出ています。でも、朝寝坊したときは、染める時間がないので、染めずにそのまま臨床実習に出てしまっています。臨床実習先である歯科診療所には、学校の先生はほとんどチェックに来ないから見つからないし、歯科医師の先生も茶色に髪を染めているから大丈夫だと思っています。別に患者さんに迷惑になることはしていないからいいですよ。



・いろいろな患者さんが来院しますが、そのことについて配慮していますか？

### 参考文献

- 1) 日本歯科医学教育学会 倫理・プロフェッショナリズム教育委員会：2013年度版 よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集。日本歯科医学教育学会，2013。